令和6年度　江戸川区立南小岩小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	よく考える子（重点）　　思いやりのある子　　たくましい子			目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	「学校・家庭・地域が共に補い合い、三位一体で児童を共育する南小岩小」⇒【教育環境の創造】 「すべての児童が一つでも多くの自己実現を果たそうとする南小岩小」⇒【学力向上】【心力向上】【体力向上】 【学力向上：授業で勝負する教師】【心力向上：児童の心の声を待つ・聴く・受け止める教師】　【体力向上：心身共に健康な教師】
前年度までの本校の現状	成果	＜成果＞児　童：特別支援教育を推進し、自他を思いやる心の醸成を育んでいる。校内研究を充実させることで、児童の深い学びについての理解を深めた。 教　師：新校舎における、新年度の教育活動が円滑に推進できた。		課題	児　童：児童の自己肯定感を高め、心力向上をはぐくむ。学力や体力を区や都の平均以上にすることを目指す。 教　師：心身ともに疲労蓄積したままの教員がいる。「誰もが働きやすい職場環境の創造」が最優先課題である。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	１　本校独自の学力調査（年間２回）に基づく、指導の充実 ２　ミライシード内「ドリルパーク」を活用した基礎・基本の徹底 ３　タブレット端末を活用した協働的な学びの実現	１　第２回実施時の正答率を全学年３％以上向上 ２　ドリルパークの定着率が80％以上 ３　タブレット端末を活用した授業を1日に1時間以上実施											
	○読書科の更なる充実	１　読書科における、探究的な学習の実施 ２　調べ学習コンクールへの参加	１　探究的な学習を全学年で年１回以上実施 ２　コンクール応募率を中学年以上で60％以上。											
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞	１　全校運動遊びの充実 ２　体育授業の充実 ３　食育・歯の健康	１　全校運動遊びを内容を充実させ、週１回実施。 ２　年間指導計画を見直し内容の充実を図る、また、体力テストで全項目で、昨年度の数値を向上。 ３　食後の歯磨きを１５０回以上実施。											
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	１　特別な配慮を必要とする児童の指導方針、学びのユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級経営・授業の創造 ２　みつばち学級と通常学級の積極的な交流	１　特別支援学級や特別支援教室の児童に加え、特別な配慮を必要とする児童の個別指導計画の作成を100％ ２　みつばち学級児童との授業や休み時間の交流を全学年で月１回実施											
不登校・いじめ対応の充実	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hypaer-QUの活用	１　学校の居場所づくり、絆づくりに向けた取組「ｈｙper-QU」の実施 ２　SC及びSSW等連携したケース会議の実施	１　保護者・地域アンケートで、思いやりの心の育成についての肯定的な回答７０％以上 ２　SC及びSSWとの連携を週１回以上実施											

地域社会に開かれた学校（園）の実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実	○　保護者・地域向けのお知らせや学校ホームページの充実	○　週１回以上、更新する。											
	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	○　フォームズやテトルを活用した学校評価を計画的に進行	○　保護者等アンケートで、学校の教育活動への理解についての肯定的な回答８０％以上											
特色ある教育の展開	＜心力の向上＞ ・心豊かな児童の育成	１　全教育活動を通した道徳教育の推進 ２　家庭と連携した道徳教育の実践	１　全学級年間35時間以上の道徳授業 ２　全体保護者会、道徳授業地区公開講座、学校だより巻頭言等で保護者に協力依頼											
	＜心をこめた挨拶の励行＞	○　全教職員で挨拶の励行、校長は２００日以上正門で出迎え	○　校長は、年２００日以上、正門で「心をこめた挨拶」の率先垂範											